

「僕たちにできること」

神奈川県 厚木市立玉川中学校 1年 ^{いしかわ} ^{たくみ} 石川 拓海

今年も台風の季節がやってきました。

台風やゲリラ豪雨は、日本全国に土砂災害をもたらします。山が多く、台風や地震の多い日本では、土砂災害は避けることのできない災害です。そして土砂災害は、一瞬で大切な人の命や住宅を奪っていくのです。

もちろん、国では災害を防ぐために、土砂を途中で受け止める施設を設けたり、山に木を植えたり、斜面にコンクリートの柵などを作ったりして、災害を少しでも減らす努力をしています。しかし、それでも毎年どこかで土砂災害は起きてしまいます。

僕は、昨年広島で起きた土砂災害のことを思い出していました。

広島の災害では、土砂災害の警戒区域には、まだ指定されていない場所もあったりしました。また、夜中に集中豪雨が降ったために、広島市が避難勧告を出すかどうか迷ってしまい、多くの被害者が出てしまったそうです。

突然の豪雨、土砂に、逃げることもできずに、流されてしまった多くの命。寝ている時に、家族が離れられなくなってしまい、その場所で生死が分かれてしまった人達。本当に気の毒でなりません。

では、土砂災害から命を守るために、僕たちにできることは、何なのでしょう。

それはまず、地球全体の環境を守るのだと思います。地球全体というと、話が大きくて大変そうですが、例えば、僕たち1人1人が、必要以上に車に乗らないことや、むやみに木を伐採せずに、山を守ることなどにより、二酸化炭素の排出を抑え、ゲリラ豪雨などの、異常気象をなくすことにつながるのではないかと思います。

そしてもう1つ。

土砂災害から命を守るために僕たちにできること、それは、日頃から災害に対する備えをしておくことです。

それには、まず第1に知ること。住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」であるかどうかを、ハザードマップで確認し、また、避難場所を知っておくことです。家の周りに危険な場所がないか、普段から注意し飛ばされそうな物があれば、片づけたり、土のうを作って補強したりすることも、被害を最小限に食い止めるためには、大切です。

第2に、情報に注意すること。テレビなどで流れる「土砂災害警戒情報」に注意することです。情報が出たら、家の周りの音や、防災無線などに注意し、避難するタイミングを見極めることが大切です。

第3に、早めに避難することです。普段から家族で避難場所までの道のりを確認したり、連絡先を決めておいたり、非常用持ち出し袋を用意して、避難訓練をしたりすることで、いざ災害にあったときの避難も、スムーズにできると思います。そして、危険を感じたら早めに避難の判断をすることです。

僕の家は、今のところ「土砂災害危険箇所」には指定されていません。しかし、大雨が降ると、家の前の道は川のように水が流れます。実際、川の近くに住んでいるし、避難場所の中学校までは川沿いの田んぼが広がる道を歩き、坂を登らなければ行けません。きっと道は水びたしになってしまうでしょう。

家には、足腰の弱い祖父母と、歩くことがやっとの弟がいます。たぶん、避難勧告が出たとしても、歩いて避難することは、できないでしょう。車が走れるうちに、みんなで避難するしかありません。タイミングが難しいですが、少しでも早めに避難できるよう、準備しておこうと思いました。

最近、日本では、土砂災害が増えています。まさか、自分が被害にあうわけがない、などと思わずに、1人1人が真剣に災害と向きあい、対策を心掛けておくべきだと思いました。